



人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和4年 12月 15日

No.10



12月7日 大宮中学校人権意見発表会&講演会



人権のつどい

第1部 人権意見発表会

発表の要旨



3年 豊田 はるとくん

「文字の魔力」

障害という言葉には「物事の達成や進行の妨げとなるもの・こと」という意味があります。つまり、「障害者」は文字だけ見ると、妨げる人、

妨げる者ということになります。

文字というものは見かけによらず意外と怖いものだと思います。「障害者」もそうです。上に「障害」と付いているばかりにマイナスな印象を人に植え付けてしまうのです。数学が苦手な人が望んで数学を苦手になったのではないのと同じように、難聴や言語障害などを抱えている人たちも望んでそうなった訳ではないのです。

「あの人難聴だし関わりたくない」になるとどうでしょうか。理解できるとか思ってしまう人は完全に差別をしてしまっている人です。今すぐその意識を改めないといけませんね。とはいえ、分かると思った人が多かったと思います。それもこれも全部「障害」という文字がマイナスなイメージを植え付けてしまうのが大きな要因ではないでしょうか。最近「障害者」の「がい」をひらがなに表記することが増えた気がします。恐らく「害」というマイナスなイメージを持つ漢字をひらがなにすることで障がい者への意識を変えようという意味があるのだと思いますが、まだ駄目です。「障がい」という最悪な文字が意味を持って仁王立ちをしています。目が見えない、耳が聴こえないなどの事柄を「障害」とは別の言葉で表現する、もしくは区別することをそもそもやめてしまえばいいのではないかと思います。

ここまで書いたことは現段階では全て理想の域を出ない、非現実なことです。しかし、たくさんの人たちが、今で言う障害者の人たちに対する意識を改めたり、困っている人がいたらたとえそれが偽善で会っても助ける、「やらない善よりやる偽善」ということを意識してみると話は変わってきます。当たり前のように困っている人を助けることができる人がたくさんいる社会だと「障害者」という括りが必要なくなるのではないのでしょうか。そんな社会を目指すため、やっぱり文字を使い、視覚や触覚から始めていければいいなと思っています。



1年 岡田 芽依さん

「だれもが理解し合える社会に」

私は学校で、障害者の人についてはあまり勉強したことがなくて、身近に感じたことがありませんでした。店等で見かけると、



近寄りがたく思ったり、変だなと思ったりしていました。

そんな私に、大きな出来事が起こりました。それは小学2年生の時、妹の結愛ちゃんが生れたことです。結愛ちゃんはお母さんのお腹にいるとき病気が見つかりました。無事に生まれてくる確率は6%で、平均寿命は2週間だと言われました。1歳まで生きられるのはほんの10%だとも言われました。

ついに結愛ちゃんが生まれてきました。大きな手術を乗り越えて、結愛ちゃんは今5歳です。生まれる前に言われていたように、耳が聞こえなかったり、首が座らなくて立ったり歩いたりができなかったり、言葉を話すことができません。他にも、手や足に繋がっている指があったり、食べ物を飲み込むことができないので、鼻から胃まで入っているチューブからミルクを飲んだりします。耳の形も違います。

こんなふうに、他の人とは違うところや、できないことがたくさんあるけれど、私にとってそれが結愛ちゃん、結愛ちゃんはただただかわいい妹です。結愛ちゃんは、遊んでほしいときは大きな声で叫びます。だっこをしたり、遊んだりしてあげると大きな声で笑って喜びます。私は、人と違うからって結愛ちゃんのことを恥ずかしいとは、まったく思いません。それよりも、たくさんの病気の治療をがんばりながら、強く生きている結愛ちゃんを自慢に思っています。

前に、結愛ちゃんの繋がった指を見た友達が、すごくじろじろ見てきたことがありました。また、お店ですれ違う人が、振り返って見てきたこともありました。そのとき私は嫌だなと思っていました。でも今思うと、それらはその人が結愛ちゃんのことを知らなかったから、すごく不思議に思っただけなのかもしれません。指の形が違って、耳の形が違って、チューブをしていても、私は何も変だと思いません。それは、結愛ちゃんが生まれた時からずっと一緒にいて、結愛ちゃんのことをよく知っているからです。だから人権を大切にするには、相手のことを知る、知ることができなかつたら、想像するということが、すごく大切だと思います。

結愛ちゃんが「あーあー」と大きな声を出して「眠たい」「遊んで」と怒るように、他にも障害があって突然大きな声を出す人がいるかもしれません。そういう人を見ると、「近づきづらいな」などと思うかもしれませんが、でも、きっとその人にも怒っていたり、喜んでいたり気持ちがあるはずですよ。だからそんな時には、その人の気持ちを想像すると少しでもその人のことを理解できるのではないのでしょうか。

結愛ちゃんは、これまでも今も病気の治療のため、たくさん痛いことを経験してきました。毎日一生懸命生きています。結愛ちゃん以外の障害者の人も結愛ちゃんと同じで、一生懸命生きています。だからこそ障害のある人を見たら、その人も自分と同じ一人の人間で、一生懸命生きているのだということを考えてほしいです。

人を理解するということは、障害者だけではありません。身の周りの友達でも同じです。相手のことをよく知って理解し、気持ちを考えて付き合うということで、人権を大事にできると思います。まずは相手のことを「知ること」で「理解すること」ができ、人権を大切にしていけることにつながっていくのです。

私は結愛ちゃんのおかげで、障害者の人と関わるが増えたり、障害がある人のことを考えたりできるようになりました。だけど、まだまだ人のことを知らなかったり、相手がどう思っているかを考えられていないときがあったりします。だから私も、もっといろいろな人と関わり、いろいろな人のことを知り、相手の気持ちを想像して人と関わっていこうと思います。

